

14. 阿武隈地域における畑輪作の営農モデルの策定

福島県農業試験場経営部・平成10、11年度春夏作試験成績概要

1 部門名 農業経営－農業経営－作型・栽培型、所得 15－01－18590000

2 担当者 鈴木久雄

3 要 旨

阿武隈地域における畑作振興に寄与することを目的として、高収益作物の省力的輪作技術体系を導入するための畑輪作営農モデル(規模別に2モデル)を作成した。

(1) 畑面積が1ha程度の中小規模経営モデルとして、「夏秋ネギー(青刈麦)－コンニャク」の2年2作体系を位置付け、農用地開発地区のような畑面積が5～6ha程度の比較的大規模な経営モデルとして、「加エトマト－大麦－大豆－小麦－(緑肥)」の3年4作体系を位置付けた。

(2) 現地実証担当農家の作付実績を踏まえ、中小規模モデルで夏秋ネギ25a、コンニャク75aの作付を前提とし、大規模モデルで加エトマト、大麦、大豆、小麦各々2haの作付を前提として経済性及び労働時間を算出した。その結果、10a当たり及び時間当たりの所得額並びに10a当たり労働時間は、中小規模モデルでは175千円、820円、213時間となり、大規模モデルでは63千円、1,260円、50時間となった。

(3) 両モデルの全体の経営規模に対する時期別総労働時間についてみると、中小規模モデルでは労働力利用の周年化・平準化が図られたが、大規模モデルでは加エトマトの収穫時期に当たる8月には、とび抜けて労働力が多くなり、想定した3人程度の家族労働力では対応できず雇用が必要となった。

(4) 両モデルの経済性を県内農業経営の経済性(H9)と比較すると、中小規模モデルは土地生産性で優位にあり、大規模モデルは労働生産性で優位なモデルとして特徴付けられた。